

序 文

昭和60年における富山医科薬科大学研究活動一覧（第9輯）をここに刊行することになりました。本学も昨年十月をもって開学いらい十周年を経過し、諸施設もおうむね完成し、研究活動も次第に充実して、ここに集録されたように国内的にも国際的にも注目をひく研究業績が発表されつつあることはご同慶に存じます。

本学は医学と薬学の二学部に、和漢薬研究所、附属病院が加わった、国内的にも国際的にも大へんユニークな組織をもっております。医学、ないし薬学だけの、単科大学は日本にも諸外国にも数多くの例があり、あるいはこの両学部をふくむ総合大学も沢山ありますが、本学の場合には、人間の病気の治療や予防を目ざす科学として車の両輪ともいうべき二つの異なった分野が共存して、密度の濃い協力をしていることに大きな特色がみられます。ここに示された研究成果のなかにもこうした環境にこそ育くまれ、完成された業績がいくつも見出されることにお気づきのことと思います。

本学の研究業績のもう一つの特徴は、和漢薬研究所を中心に、薬学、医学の諸講座、とくに病院の和漢診療部において、中国と日本に伝統的な生薬と、その活性成分、薬理、臨床などに関する基礎的、応用的な研究が積み重ねられていることでしょう。この分野には、本場の中国をはじめ、アジア、中近東などからの留学研究者も多くなり、その方々の研究業績も次第に蓄積されつつあります。

開学十年といえば、各講座ともちようど油の乗り切り始めた時期であり、いろいろな国際研究活動も活発となり、オリジナリティの香り高い論文も華を咲かせ始めていることに気がつきます。各講座の研究者の方々がこれから、さらに一段と独創性が高く、価値多き研究業績を発表されていくことを期待します。

学 長 佐 々 学

